

A. バックオフィス	データ活用で進める業務連携
システム導入	

コースのねらい	所有するデータを経営資源として管理し、活用することで、社内外の業務の連携を強化できることを理解する。
---------	--

「基本項目」	「主な内容」	訓練時間(H)	
講義内容	1 データ活用の基本	データを活用した企業経営の必要性 データから生み出される新たな価値創出の考え方(日常生活を例題にして分かりやすく図解解説) 企業におけるデータ活用を意識する思考訓練 「社員にとってデータが自分ごとになっていない」ことへの意識改革の必要性を促す データ利活用の現状把握と課題を探るワークショップ演習【演習あり】 セルフワークを通して自社のデータ利活用状況を検証する。「自社データ利活用状態と課題を整理し、どのように活用したいのかを考察するための手法」 アクティビティ演習: 基礎知識確認のためのクイズ【演習あり】 社内外の業務の連携を強化するために、必要なデータ利活用基礎知識をクイズ形式で回答頂き理解を深める。 ※セクション内容「基本項目」全体の要点確認、質疑応答とフィードバックセッション	1.5H
	2 データマネジメント	データマネジメントの定義・基礎知識と重要ポイント データと情報の違い、データ選別とデータ活用のために必要なルール データの種類(構造化データ、非構造化データ、「ビジネスデータ」と「メタデータ」) 基本知識の習得 ビッグデータの基礎知識 データマネジメントを活かすデータ収集・データ加工・データ分析の極意 自社のデータが収集・加工され、分析など活用されるまでのデータパイプラインについて デジタルイノベーションとして、データドリブン推進例とデータマネージメントの仕組みを解説。(データ活用・可視化・データマネージメントプラットフォーム) 自社のデータマネージメントのビジョンを検討しよう【演習あり】 企業においてデータ活用のマネジメントとして今後のビジョンや目標設定のアウトプット。 ビジョンや目標設定の事例とともにデータ活用の可能性を探る ※セクション内容「基本項目」全体の要点確認、質疑応答とフィードバックセッション	1.5H
	3 データ活用と業務の連携	IT新技術を活用(IoT、クラウド、ビッグデータ)したデータ活用事例 データ活用による業務連携事例 デジタルデータの経済的価値の計測と活用の現状に関する調査研究からの考察 データマネジメントの成功事例 【旅行業】旅行業界は顧客の観光地への興味と、その行動特徴に基づいてビジネスを展開する情報収集における活用シーンの紹介 【製造業】IoT/ビッグデータの高度活用により、製造プロセスを改善できるだけでなく、生産性向上や品質安定した製造業の事例紹介 【小売業、その他】市場情報を収集することでビッグデータの解析をもとに、顧客満足度を判断したり、新製品の開発にする活用事例やシーンを紹介 データ活用を促進するための実務的なツールの活用 アンケートやSNSでの発信内容の文章をデータ分析できる「AIテキストマイニングツール」 WEBマーケティングには欠かせない「アクセス解析ツール」 売り上げ増加を促すセールスファネルについての仕組みや活用方法 表計算ソフト等でのデータ分析の奨め！ BI(ビジネスインテリジェンス)ツールの紹介と活用法	3.0H

	自社が所有するデータを使ったデータ収集・整理の実践【演習あり】
	<p>企業内で蓄積されて眠っているデータの活用についてのセルフブラッシュアップしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆企業で活用できる「営業部門」・「マーケティング部門」データ例 ◆企業で活用できる「人事部門」・「カスタマーサポート部門」・「製造部門」データ例 ◆その他
	全体内容の総まとめと要点確認、質疑応答とフィードバックセッション
	<p>データマネジメントのまとめとQ&A</p> <p>質疑応答とフィードバックセッション</p>
合計時間	
6.0H	

カリキュラム作成のポイント
<p>受講者の参加と関与を促進する演習やグループワークの導入: 企業内に保管されたデータの特徴やデータ活用課題を把握する際に、セルフワークと受講者同士でペアワークを行い、意見交換や問題解決の糸口を探ります。</p> <p>基礎知識の定着を図る振り返りとQ&Aセッション: データの収集から加工・分析活用までの一連の流れを、「カレーレシピと料理」の概念を入れて分かりやすく図解化した解説は、子どもにも分かる表現です。各セクションの終わりに、重要なポイントを振り返り、受講者の理解を確認するためのQ&Aセッションやクイズを設けます。これにより、受講者が理解した内容を確認し、疑問や不明点を解消することができます。</p> <p>実践的なスキルや知識の提供: データを活かすためのステップやフレームワーク、システムの導入手順など、実践的スキルや知識を提供します。実際の業務に役立つ情報を提供し、受講者が実践的なスキルを身につけることができるよう配慮します。</p> <p>DXIに必要な不可欠なデータマネジメントの重要性 企業内には膨大なデータが蓄積されているが、中小企業や非IT企業では活用する術が分からずに実態と活用を妨げる問題を認識した、企業内のデータ活用推進者を育成することが目的です。あらゆる業種・職種、役職でデータの流れや共有方法、リスク管理などをデキスパート専門家より学び活かす術を習得することができます。</p>

訓練に使用する機器等	
●機器・ソフトウェア(受講者用)	●機器・ソフトウェア(講師用・その他)
<p>筆記用具とノート</p> <p>スマートフォン・QRコードアプリ(任意)</p>	<p>ノートパソコン(講師用)+HDMI変換コネクタ、OS:Windows11,Powerpoint</p>
●テキスト	●その他
<p>自作資料Powerpoint資料(A4用紙両面印刷)</p>	<p>※WIFIが使えれば幸いですが、WIFI環境なくても講師スマホのポケットデザリングによりインターネット接続が可能。</p>

利用事業主に用意をを求める機器等	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター(HDMI対応) ・スクリーン(ワイドスライド対応) ・HDMI対応ケーブル・延長コード(PC電源接続用) ・音響機材(マイク) ・ホワイトボード+マーカー(黒) <p>※研修前や休憩時間等に環境音楽BGMを流します。</p>	<p>当研修におけるクラウド型のデータ活用ソリューションツールは、スマートフォンアプリ(無料)をダウンロードすることで実践方法を講話可能です。多くの受講者希望があれば、受講者のスマホポケット通信費用が自己負担になりますが、アプリ活用により実践的な当研修を応用したソリューションツールの指導も可能です。</p>